平成30年度学校だより
善誘館 NO．６
Ｈ３０．１０．２
甲府市立善誘館小学校　校長室

校　訓　「善行・勤勉・体育」
学校教育目標
○　思いやる心をもつ子
○　よく考え工夫する子
○　元気でたくましい子

本校の全国学力・学習状況をお知らせします

本年度の全国学力・学習状況調査が４月１７日に全国の小学６年生及び中学２年生を対象に実施され，本校の６年生も参加しました。過日，その調査結果が公表されました。
本校では，「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指した教育活動に努めており，全国学力・学習状況調査の結果はその一部でありますが，子どもたちの現時点での一定の状況を捉えることができます。
この結果を受けて学校では，指導方法の改善や校内研修の活性化に努めるとともに，その概要を保護者や地域の皆様にお知らせし，家庭はもとより地域の皆様を含めて総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと考えております。
全国学力・学習状況調査の「目的」「対象」「内容」は次のとおりです。

調査の目的
・全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため，児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策を検証し改善を図る。
・各学校，教育委員会において，全国的な状況との関係において，個々の児童生徒及び学校の状況を把握し改善に努める。
調査の対象
・小学校６年生，中学校２年生の原則全員
調査の内容
①教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）
主として「知識」に関する調査（Ａ問題）
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
・実生活において不可欠であり常に活用できることが望ましい知識・技能
主として「活用」に関する問題（Ｂ問題）
・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査「児童生徒に関する調査」「学校に関する調査」

本校の学力・学習状況の結果分析と改善

１　学力調査の結果

本校児童は，国語Ａ・算数Ａ・算数Ｂ・理科は全国平均とほぼ同等，国語Ｂ問題は全国平均を上回っていました。
文部科学省では，平均との差±５％を微差とし，「±５％は，ほぼ同等を意味する」としています。

【参考】平成30度全国学力調査　教科別平均正答率（全国・山梨県）

	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	理科
全国平均	７０.７％	５４.７％	６３.５％	５１.５％	６０.３％
山梨県平均	７１％	５４％	６２％	５０％	６０％

□　教科（国語，算数，理科）における主な課題

本校の主な課題として，以下の内容が考えられます。これは，県・全国平均より悪いものを示したのではありません。本校として，正答率が低い傾向にある内容をあげました。ですから，正答率が県・全国平均を上回っているものも含んでいます。

国語

A「知識」
- 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し使うこと。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
- 文の中における主語と述語との関係などに注意して，文を正しく書くこと。

B「活用」
- 目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして，詳しく書くこと。
- 目的に応じて，文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながら読むこと。

算数

A「知識」
- 除法で表すことができる二つの数量の関係を捉えること。
- 異種の二つの量のうち，一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を捉えること。
- 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること。

B「活用」
- 示された情報を解釈し，条件に合う時間を求めること。
- 棒グラフと帯グラフから傾向を読み取り適切に判断すること。

理科
- 人の腕が曲がる仕組みを模型に適用すること。
- 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないこと。
- 調べた結果について考察する際に，問題に対応した視点で分析すること。

□　具体的な取組

国語

①漢字練習の工夫
- 漢字の読みや字形に注意して繰り返し書いて練習するとともに，同じ音や同じ部分を持つ漢字との違いや，文脈の中での使い分けに着目できるように指導する。

②慣用句の工夫
- 言語生活を豊かにするために，慣用句の意味を知り，スピーチや日記などの中で実際に慣用句を用る機会を設けるなど，実際の言語生活で用いることができるように指導する。

③表現方法の工夫
- 自分の考えが相手に伝わるように，構成を工夫し他の物と比較して適切な内容を取り上げ詳しく書くことができるようにする。

算数

①基礎基本の反復練習
- 整数，小数及び分数の計算においては，問題を解決する過程で，数量の関係を捉え，計算の意味の理解を基に演算決定をすることができるようにする。
- グラフから変化の特徴を読み取るために，一方の数量が増加するときの他方の数量の増減の様子を視覚的に捉え，グラフ全体の変化の特徴に着目して考察することができるようにする。

②発展的な問題への適用力の向上
- 示された情報を解釈し，数量の関係に着目して，筋道を立てて考え，数理的に処理することができるようにする。
- 課題解決のため，複数の情報を関連付けて論理的に考察し，判断の理由について根拠に基づき説明できるようにする。

理科
- 学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにするために，既習の内容や生活経験と関係付けて話し合う場を設定し，提示された自然の事物・現象を捉えることができるようにする。
- 問題に対応した視点で分析できるようにするために，問題を明確にし，その視点に沿って結果から必要な情報を適切に選択できるように指導する。

実際の問題の一部を紹介します

国立教育政策研究所のＨＰに全問題，正答例等が掲載されております。よろしければ参照ください。

石橋さんたちは、地域の人から仕事についての話を聞いています。次の【話を聞いている様子の一部】を読み、［ア］・［イ］に入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【話を聞いている様子の一部】

石橋さん　みなさん、池田さんが［ア］。今日は、おとうふ屋さんの仕事について、たくさん教えていただきましょう。池田さん、お願いします。

池田さん　みなさん、こんにちは。

～（池田さんの話を聞く）～

石橋さん　池田さん、ありがとうございました。池田さんに質問のある人はいますか。

高野さん　おとうふ屋さんは、朝早く起きなければならないので、とても大変だと私の母が［イ］のですが、池田さんはどうですか。

1　ア　来ました　　イ　言っていた

2　ア　いらっしゃいました　　イ　おっしゃっていた

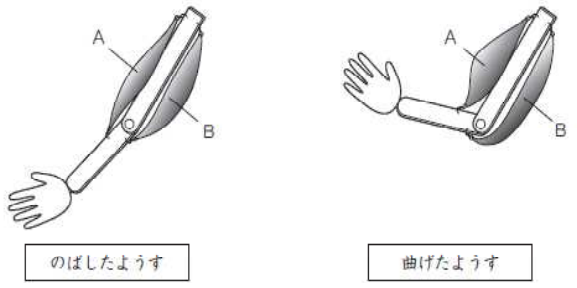
3　ア　来ました　　イ　おっしゃっていた

4　ア　いらっしゃいました　　イ　言っていた

出題の趣旨
相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかどうかをみる。
正解は４

たかしさんは，下の図のようなうでの模型を使って，うでが曲がるしくみを説明することにしました。

うでの模型



(4)　このうでの模型を使うと，うでが曲がるしくみのどのようなことを説明することができますか。下の **1** から **4** までの中から１つ選んで，その番号を書きましょう。

1　うでには，３本の骨があって，うでをひねったり，曲げたりすること。

2　Ａの筋肉が縮み，骨と骨のつなぎ目でうでを曲げること。

3　ＡとＢの筋肉が同時に縮み，骨と骨のつなぎ目でうでを曲げること。

4　Ｂの筋肉が縮み，骨と骨のつなぎ目でうでを曲げること。

出題の趣旨
人の腕が曲がる仕組を模型に適用できるかどうかをみる。
正解は２

答えが 12 ÷ 0.8 の式で求められる問題を，下の **1** から **4** までの中から**すべて**選んで，その番号を書きましょう。

1　1 m の重さが 12 kg の鉄の棒があります。
この鉄の棒 0.8 m の重さは何 kg ですか。

2　0.8 L で板を 12 m² ぬることができるペンキがあります。
このペンキ 1 L では，板を何 m² ぬることができますか。

3　赤いテープの長さは 12 cm です。
白いテープの長さは，赤いテープの長さの 0.8 倍です。
白いテープの長さは何 cm ですか。

4　長さが 12 m のリボンを 0.8 m ずつ切っていきます。
0.8 m のリボンは何本できますか。

出題の趣旨
小数の除法の意味について理解しているかどうかをみる。　正解は２と４

２　学習状況調査の結果

□　質問紙調査結果から見られる主な特徴

質問紙では，児童の生活習慣や家庭学習などの傾向をつかむことができます。

■　生活習慣

「朝食を毎日食べる」習慣は全国平均を上回っていますが，規則正しい就寝の習慣が身に付いていない児童もおりました。

「毎日新聞を読む児童」は全国平均より低いですが，週の中で必ず読む日がある児童は３分の２程おり全国平均を大きく上回っています。

「地域や社会の問題や出来事に関心がある」児童は３分の２程で全国平均を上回っていますが，地域のボランティアに参加する割合は全国平均を下回っています。

■　学習習慣

「平日に家庭学習を１時間以上している児童」は９割を超え，２時間以上も半数近くおり，家で計画的に予習や復習をしている割合も全国平均より高く，家庭学習の習慣化がなされていることが伺えました。

また，多くの児童が学校や家庭で読書に親しむ習慣が高まっています。

算数・理科の勉強が好きで，勉強は大切だと回答する割合が全国平均を上回り，内容の理解に繋がっています。

■　学校生活

殆どの児童が「学校のきまりを守っている」「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答しており，ルールや仲間を大切にする意識が高いことが伺えます。

また，教師が「自分のよいところを認めてくれ」，「分かるまで教えてくれる」存在であると感じているようです。

■　自己評価

「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童の割合が全国平均を上回り，友達と助け合い自信を持って生活し「人が困っているときは，進んで助ける」ように行動する生活を送っているようです。

□　課題を改善するために

基本的生活習慣・家庭学習の定着
ご家庭での協力をお願いします

生活習慣や学習環境に関するほとんどの項目において，肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を上回っています。

基本的な生活習慣は，小学生の心身の発育にとって重要な要素です。その上に，家庭学習の習慣化を図り，小学校５，６年生では毎日６０分以上は机に向かい，自分の立てた計画に沿って学習する習慣を付け，中学校へ繋げていきましょう。

児童は家庭学習用のノートに学習の足跡を残し継続的に取り組み，担任は定期的にコメントを記入して励まし，家庭学習の手引きを活用して「ながら勉強」にならないような習慣作りを呼びかけております。これからも家庭との連携を進めていく中で，さらなる家庭学習の充実を図り，基礎的な生活習慣の定着を図って参りましょう。

「放課後や週末に何をして過ごすことが多いか」という設問に関して，「家でテレビやビデオ・ＤＶＤを見たりゲームをしたり，インターネットをしたりしている」という回答が最も多く，全国平均を上回っていました。社会全体に，テレビやゲーム，特にスマホの誘惑が増えており，大人にもスマホ依存症が増えています。
身近にあれば，つい使いたい，遊びたい誘惑が生まれ，スマホやゲームの依存に陥ると脱出は困難と言われます。親子でしっかり話し合い，使い方を決めてください。

また，読書に親しんだり，「新聞を読む・ニュース番組を視聴する」等社会への関心を高めることは，自分の意見を言葉や文章で伝える力となり，現代社会において非常に大切な力です。自分なりの考えを持つ大切な機会にもなります。読書好きな児童は多いのですが，１回の読書時間が少なくなってきています。

読み聞かせ・朝読書・図書室での授業のさらなる工夫をして，より一層の読書活動の推進に努めて参ります。